

B-42 D D V P のイガに対する殺虫効果について

奈良女大家政 辻井康子 ○藤岡祥子

目的 有機リン殺虫剤である D D V P はイエバエに対する殺虫力が大きく、家庭でも使用されつゝあり、衣料害虫にもその効果の大きいことが認められている。しかし最近多量の殺虫剤使用が人畜に悪影響を及ぼしていることが問題になっているので、家庭内での使用は慎重に検討されねばならない。そこで今回は、まず D D V P のイガに対する殺虫力を知るために、殺虫剤の生物検定法によって、D D T, B H C と比較検討した。

方法 $20 \pm 1^\circ\text{C}$, 50~60% RH で飼育したイガ幼虫及び成虫を用いて、 20°C , 30°C の 2 温度区にて、局所施用法、接触食害法による殺虫試験をおこなひ、Bliss のプロビット法を用いて解析した。

結果 D D V P, B H C, D D T による殺虫試験の結果から、イガに対しては、D D V P がとくにすぐれた殺虫力を示した。成虫に対する局所施用法 (30°C) では、体重 1 mg あたりの LD 50 は、D D V P が 1.59×10^{-3} μg で、B H C は 3.76×10^{-2} μg , D D T 4.66×10^{-1} μg であった。温度の影響についてみると D D V P は、 20°C よりも 30°C での殺虫力が大きい。これは D D V P が呼吸毒中心の揮発性薬剤であるために、高温ほど揮発性が大きくなり、昆虫の呼吸量も増加することなどが原因と考えられる。